

第三者意見

「CORPORATE REPORT 2018」を読んで

2018年8月1日
神戸大学大学院
経営学研究科教授
國部 克彦



長期戦略構想と価値創造

「京阪グループ長期戦略構想」は、現在構想されている関西の大きなプロジェクトを視野に入れ2050年を照準にした経営ビジョンとその実現のための長期・中期の2つの戦略で構成されています。「選ばれる京阪」という前経営ビジョンから一歩進めて、「美しい京阪沿線、世界へつながる京阪グループへ」と変わりました。長期経営戦略では3つの主軸戦略「沿線再耕」「観光共創」「共感コンテンツ創造」が掲げられています。企業の存在意義と社会的使命を具現化する「社会と共有する価値」を創造することは大変意義があることで、高く評価されるものです。中期経営計画では価値創造に向けた取り組みを具体的に記載しわかりやすく説明されています。今後は、長期的な目標の中での位置づけと進捗状況、社会へ与えた効果などを合わせて開示していただければ、より一層共感できる情報になると思います。

CSRの基盤と展開

京阪グループでは「CSRの重要テーマ(マテリアリティ)」を特定し、活動方針を開示されるなど、着々とCSR経営の基盤を整えています。今後は各項目において可能な限り数値情報を含む進捗状況が報告されることを期待しています。またCSV(共通価値の創造)といえる3つの価値創造については、社員ひとりひとりが「経営ビジョン」を心に刻み、それをどう実現化するかを考えることから新たなアイデアが出てくるものと考えられます。社員は沿線住民であり、観光客であり、インバウンドのホストであり、京阪グループの価値創造の第一線にいる人です。そのため社員の働き方を改革し、女性だけでなく男性も全員のワークライフバランスを考え、様々な立場から経営ビジョンの実現を考え、それを汲み取る仕組みをつくられると良いのではないかと思います。さらに、京阪グループが創造する価値を世界共通の社会課題である「持続可能な開発目標(SDGs)」と結びつけて説明すれば、今後海外へ拡大していく京阪グループをより広く理解していただけるのではないのでしょうか。

グループ全体での活動の拡大と深化

今年はグループ企業の記事が増え、環境や安全といった項目について、鉄道事業以外のバスや食、住宅やコミュニティについての記載が多く見られました。グループとしての報告書らしく、大変興味深い記事が多く充実しています。今後も、京阪グループの様々な事業で、どのような社会課題をどのように解決していくのか説明するとともに、活動を展開して頂きたいと思います。鉄道、バス、不動産、流通、ホテル・観光レジャーと多くの事業があり、京都と大阪という世界有数の観光都市に拠点を置く企業だからこそ、大切に守り続けてほしい価値、新しく創ってほしい価値があります。今後の京阪グループの活動に注目しています。